

2011 Formula Nippon
Project μ /CERUMO・INGING Race Report
第2戦 オートポリス

□ 6月5日（日） 決勝

#33 国本 雄資 11位

< 決 勝 > 天候:雨~曇り | コース状況:ウエット~ドライ

惜しくもQ3進出は果たせなかったものの、Q2に進出し11番グリッドを獲得した国本と Project μ /CERUMO・INGING だが、一時は天候が持ち直すのではないかの予報があったものの、一夜明けた日曜のオートポリスは朝から雨。九州北部がこの日梅雨入りし、一転してウエットコンディションとなってしまったことで、国本にとって日曜朝のフリー走行はオートポリスで初めてのレインタイヤでの走行となった。

WET宣言が出され、午前9時から始まった30分間のフリー走行。他のマシン同様、国本も早々にコースインするが、その直後に1コーナー手前で嵯峨宏紀がクラッシュ。このため、セッションはわずか3分で赤旗となってしまふ。

約8分間の中断の後、午前9時11分にセッションが再開されると、国本は連続走行に入る。始めは2分05秒台とゆっくりとしたペースで路面コンディションを見ながらのラップを刻んで行くが、徐々にペースアップ。ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラや伊沢拓也など、経験豊富なライバルたちがコースアウトやクラッシュを喫する中、国本はじっくりと周回を重ねて行くと、セッション終盤には10周目1分55秒104、11周目1分55秒065と55秒台を連発。午前9時半にチェッカーが提示された直後、ファイナルラップには1分53秒418とベストタイムを更新し、最終的に11番手というポジションでこのセッションを終えることとなった。



このフリー走行の後に行われたサーキットサファリの時間帯も有効に活用し、セットアップなど決勝への準備を整えた国本は、いよいよ午後2時30分からの決勝レースに臨んだ。

レース距離250km、54周目の長丁場の戦いとなる決勝。ところが、サポートレースやピットウォークの間に雨脚が弱まり、どんどん路面状況は好転していくことに。そのため、決勝スタート進行のウォームアップ走行では、まずレインタイヤでコース状況を確認、状況次第でドライタイヤに履き替えるつもりでコースインした国本だったが、なんとここでミッションにトラブルが見つかってしまふ。

すぐさまピットインする国本、そのマシンに取り付き、修復作業に掛かるメカニックたち……。決勝を目前に控え、ただならぬ雰囲気にも包まれるピットの中で、Project μ /CERUMO・INGINGのスタッフたちは必死の作業を続ける。

既にピットレーン出口の信号は赤となり、一時はピットスタートを覚悟したものの、フォーメーションスタート20分前にファストレーンに出られればグリッドに並ぶことが出来るというレギュレーションに則り、チームはぎりぎりまで作業を行った結果、見事残り数十秒のところまで国本の乗ったマシンをファストレーンに出すことに成功。本来の11番グリッドに着くことは叶

わなかったものの、最後尾ながら無事フォーメーションラップに参加することとなった。

間一髪、スタッフの努力の甲斐あってスタートのときを迎えた国本は、午後 2 時 34 分にレッドシグナルが消えると、猛然と 1 コーナーに向けて加速して行った。しかし、全車がレインタイヤを装着してスタートも、路面はもうほぼライン上が乾き始めている状況。このため大嶋和也、中嶋一貴ら数台のマシン同様、国本も 1 周目にピットに飛び込み、タイヤをドライタイヤに履き替える。

このため、いったん 15 番手までポジションを下げたものの、2 周目、3 周目にピットインするマシンもあったことから、国本は 4 周目には 10 位、5 周目には 8 位と一気にポジションを挽回。さらに 7 周目には 5 位の中嶋大祐がコースアウト。6 位の井口卓人もマシントラブルでスローダウンしたことで、国本は一気に 6 位にまで浮上。1 周目のタイヤ交換というチームの戦略が、序盤は奏功した格好となった。

しかし、ウォームアップ走行をトラブルのために十分に走行出来ていなかったこともあり、マシンはアンダーステア傾向が強く、国本はポジションこそ上がったものの、思うようなペースでの周回が出来ず苦しい走りを強いられてしまう。序盤はアンドレア・カルダレリりの猛攻に遭い、9 周目に 7 位に後退。その後 11 周目には 1 分 38 秒 012 と、そこまでのベストタイムを更新する国本だったが、その周に山本尚貴の逆転を許し 8 位に。

そこからは延々平手晃平や伊沢の猛攻に耐え続けた国本は、15 周目に 9 位に後退しポイント圏内からいったん脱落してしまうものの、19 周目には 1 分 37 秒 558、20 周目には 1 分 37 秒 530 と自己ベストを更新。粘り強い走り、カルダレリりのピットイン後の 21 周目には 8 位に返り咲くと、25 周目にはこの日のベストラップとなる 1 分 37 秒 521 をマークすると同時に 7 位に。伊沢、アレクサンドレ・インペラトリーを従えてしぶとい走り続ける国本には、ポイント獲得の希望が感じられた。

ところが、30 周を過ぎたあたりからタイヤも消耗し、いっそうハンドリングが悪化した国本は 38 周目に伊沢のオーバーテイクを許し 8 番手に。さらに 40 周目、インペラトリーの後塵を拝した国本は再びポイント圏外の 9 位への後退を余儀なくされてしまう。

さらにレース終盤、燃費的に厳しいことからチームは 45 周目に国本をピットに呼び寄せ給油を行うことに。このため 1 ラップ遅れの 11 位となった国本は、なんとかトップ 10 入りを目指したものの、その願いは叶わぬままチェッカー。予想外のトラブルに始まり、想像以上に苦しいレースとなってしまったが、Project μ/CERUMO・INGING と国本は、最高峰での 2 戦目を 11 位で完走することとなった。

ドライバー／#33 国本 雄資

「ギヤに問題があって、スタートに間に合わないかもしれないところを、チームの努力でなんとか最後尾ながらグリッドからスタートすることが出来ました。アウト&インでピットに入ってタイヤをドライタイヤに換えたのですが、マシンのバランスが凄くアンダーステアで……。最初から最後までずっと状況は変わらず、さらに終盤はすぐタイヤがロックするようになってしまってブレーキングでも飛び込めなくなっていました。本当に厳しいレースで、これまで経験した中でも一番苦しい戦いになってしまいましたが、この経験を活かして次の富士ではポイント獲得を狙いたと思います」



監督／立川 祐路

「スタート直前にトラブルを出してしまったことは、チームとして反省し、もう少しチェックなどしっかりしなければと思います。しかし、中でもなんとか修復を間に合わせ、グリッドにマシンをつけることが出来たことは良かったですし、1 周目のタイヤ交換の判断も正しかった。そのあたりの序盤の展開は上手く行っていたと思います。ただ、そこからペースが上がらなかったのが敗因ですね。最後の給油のピットインも、本当ならばしたくなかったのですが、燃費が苦しいというチームの計算もあったので……。た

だ、上位のマシンで無給油で完走している車両もいるので、そのあたりを含めて次戦までに見直し、国本の得意な富士では良いレースが出来るようチームとしても頑張りたいと思います」